

東京連合防火協会設立趣意書

我が國が、世界で有名な火災國であることは、國民の唯もが知つて居る事實である。

扨て、如何にしたら此の不名誉を一掃することが出来かと言ふ事になると、一部の専門家以外には全く顧みられない、詢に憂ふべき状態に在つたのが從來の實情であつた。

偶々連合軍が進駐するに及び、總司令部消防當局に於かれては、逸早く此の点を看破され、之が解決策は火災豫防に對する徹底した國民全員の協力と消防力の強化拡充とを期する以外に方途はない。

既にアメリカに於て偉大な成果を収めて居る國民防火協會の如き國民的防火運動團體の結成こそ急務であると力説され、議會ある毎に廣く國民に呼びかけられて参つたのである。

處が最近漸く其の實を結び、都内に續々と防火消防思想の普及、消防施設の助成、消防職員の援護等を目的とする防火協會が生まれ、消防行政に劃期的な飛躍が行われんとする氣運に到達したことは、邦家の爲、詢に御同慶に堪へない處である。

就ては、下から盛り上る力によつて誕生した此の各区防火協會を協力に推進する爲、更に其の連合体たる東京連合防火協會を組織し、應ては結成が予想される全國的立場体たる日本防火協會（仮称）の設立促進の先がけとなつて、光榮ある指導的立場を得、以て防火消防を通じ敗戦祖國の再建に寄興すべく、本會の結成を計画した次第である。

依つて別紙會則案に則つて、新発足致したく何卒本趣旨に御賛同下され、本會の結成に特段の御協力を御願ひする次第である。

昭和二十二年五月十五日